

令和2年度 学校評価表

自分のよさを伸ばし、心豊かに輝く子供の育成

尾道市立栗原北小学校

学校教育目標	自分のよさを伸ばし、心豊かに輝く子供の育成		
a ミッション	「ことばの力」を高める教育活動の創造	a ビジョン	自ら学ぶ意欲を培い、基礎・基本の学力を確実に習得させる学校 自己コントロールができ、協同的な学びの場の中で自己肯定感を育む学校 自らの健康に関する課題を明らかにし、自律的に解決できる児童を育む学校 地域・保護者と共に教育活動を創造する学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画				
領域	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
											イ	ロ	ハ		
児童の育成に関わること	育知識の理解の質を高め、確かな学力を	「自ら学ぶ意欲」を培う教育環境を構築する。 基礎・基本の学力を確実に習得させ、論理的思考力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「栗原北小」学びのスタンダードを作成する。</li> <li>フレームリーディングによる「読む・書く活動」を展開する。</li> <li>プログラミング教育の展開例を提案し、論理的な思考力を育成する方法を開発する。</li> <li>キャリア教育により、学びの目的意識を醸成する。</li> </ul>	「自律的学習動機尺度」の前後比較（内発的、同一的因子の前後比較） 標準学力調査（国語科）の全国平均を上回る学級数（全9学級） 国語科の学期末テストにおいて、学級平均が期待値+3以上になる。	5%向上 3/9以上 期待値+3を超える	肯定61 ポイント 否定49 ポイント	肯定62 ポイント 否定46 ポイント	-	4/9学級	・学習に対する前向きな態度が62ポイント、消極的な態度が46ポイントであり、1.3倍程度肯定的要素が上回った。 ・フレームリーディングは全学年（13学級）で実施した。 1年 物語文6単元、説明文4単元 2年 物語文5単元、説明文4単元 3年 物語文4単元、説明文3単元 4年 物語文4単元、説明文3単元 5年 物語文6単元、説明文3単元 6年 物語文6単元、説明文3単元 ・プログラミング事例集を完成させ、クラブ活動で積極的に活用できた。 ・総合的な学習の時間において、4年生のドリムマップや6年生の未来学習を行い、夢を持たせる取り組みを実践したり、授業での振り返りの充実を図ったりすることで、学習意欲が向上した。	2	1	・標準学力調査の達成についての説明がなかった。 ・授業に規律があると感じた。 ・ノートをしっかり使っている。 ・教科授業（国語）を見ていないので評価できていないが、ホームページにて先生方が研修を重ね、子供達に意欲的に学ぶ授業になるよう努力されていることがわかった。 ・学習に意欲的で進歩をスタンダードとして作成し、児童に徹底して身につけさせることは、学習成果についても大切な基本となると思う。 ・国語科で身につけたい力の基本となると思うので、フレームリーディングの成果に期待している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びのスタンダード実施の進捗率を定期的に確認し、全クラスが、授業のあいさつや学習道具の準備など学びのスタイルを揃えていく。</li> <li>单元テスト結果から、児童の興味と課題を明らかにし、個に応じた課題克服に向けた授業研究を実施する。</li> <li>学級及びクラブ活動で、プログラミング事例集を積極的に活用し、さらなる改善を図る。</li> <li>引き続き、「めあて」と「振り返り」の時間を大切にしながら、児童の学習に対する肯定的評価をしながら、学びの目的意識を高めていく。</li> </ul>	
	豊かな心や健やかな体を育成する	自己コントロールができる児童を育成する。 協同的な学校生活の場を意図的に設定し、自己肯定感、役立ち感、憧れ感、リーダーシップを醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングマインドをもって、積極的な生徒指導を展開する。（アンガーマネジメント・クラス会議）</li> <li>ファミリー活動（掃除、遊び、給食、行事）による異学年交流を推進する。</li> <li>思いやりの木、ありがとう貯金の取組を推進する。</li> </ul>	「社会性と情動（SEL）基礎的社会的能力測定尺度」の前後比較 アセスの生活満足度が55以上の学級数	7項目中2項目の数値の向上 生活満足度55以上が9/13	自律的行動 61.0 意思決定 60.8 他者への気持ち 66.7 自己への気持ち 67.6 規範意識 67.7	63.1 62.8 69.3 69.7 67.9	-	350	・各学級でのクラス会議と平行して、3学期より学校全体でのクラス会議を実施した。 ・7項目すべての数値が向上した。とくに、1回目より意欲感が上がった「自律的行動」が61%から63.1%へ向上した。一番大きく向上したのは「他者への気持ち」で66.7%から69.3%であった。クラス会議の中で、友達とつながりながら問題を解決していた結果だと考える。 ・ファミリー活動を通して、リーダーシップを昇華する意識の向上や上級生が下級生を助けたり教えたたりする姿が多くみられるようになった。 ・アセスの生活満足度55以上の学級は13学級中6学級であったが、通常級は5学級から6学級へと増えた。 ・思いやりの木（月1回）と、「ありがとう貯金」の取組をもちに、「ほんわか貯金」の取組を実施した。ありがとうだけでなく、言葉全体に意識を向け始めている。	1	1	・生活満足度55以上が6/13未達成なので、Bが適正と思った。 ・新しい取り組みも多く、すぐに効果がわかるものも、そうでないことも、一人でも多く、学校へ来るのが楽しい子が増えるように期待している。 ・先生方の期待に応える子ではなく、自己肯定感で、自分の思いが言える子、認め合える子になってほしい。 ・クラス会議や全校クラス会議、ファミリー活動は児童の自律を育む上でとても効果的な取り組みであると感じた。下級生は上級生の良い姿に学び、上級生は下級生と積極的に接することで自己肯定感を高めていってほしいと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招き、クラス会議の研修を実施した。学校全体でのクラス会議の内容の充実を図り、人と関わる力や自分で考え行動し問題を解決する力を高めていく。</li> <li>ロング休憩などを活用しながらファミリー活動の充実を図り、自己肯定感や役立ち感をもちさせる共に、児童間士の関係性を深めていく。また、さらにファミリー活動ができる場がないか、学校全体の活動を見直す。</li> <li>思いやりの木、ほんわか貯金を確実に実施し、児童間士の関係性を深めていく。</li> </ul>	
地域・保護者に関わる	課外活動に実現がしやすい教育	地域社会の中に位置付く学校をめざし、教育活動へ積極的な協力者を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域教育支援推進委員会を中核に、学力、体力、徳育のそれぞれの分野の専門家、地域協力者による学びの機会を設定する。</li> </ul>	外部人材を活用した授業の児童評価 外部人材からの学校への取組評価（任意でアンケート協力依頼）	肯定的評価 80%以上 肯定的評価 80%以下	66%	66%	82.5	-	・給食時のマナーに関するアンケートの数値は、目標値を超えることができた。食への関心をもたせるために、地産産物などの指導を行った。また、学校活動や総合的な学習の時間を利用して、担任と連携をとりながら指導をすることができた。 ・残食率については、1学期よりも達成することができた。しかし、嫌いなものを残すことや、時間内に食入ることができないことが、引き続き課題である。また、副菜を多く残しているという実態を、把握することができた。 ・新型コロナウイルスの影響で、外部人材を活用した授業をほとんど行うことができなかった。それでも、児童の意識調査では66%の児童が肯定的に受け止めている。	2	-	・残食率がまだ目標値に至っていないが、工夫されている。 ・食育は家庭と学校での学びが同様となって高まっていくのを感じた。学校での取り組みや課題を家庭としっかりと共有していくことが大切と感じた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も感染症対策を行いながらの教育活動が継続することが予想される。このような状況の中、地域、保護者、学校が関わり合いながら取り組んでいくことも重要で、方法を模索しながら、目標の変更も視野に入れながら模索していく。</li> <li>外部講師が難しかったのはどこも同じである。年度途中に万策を講じ、実行する工夫が必要である。                      ・業務が小学校区は多くの人材がいらっしゃると思う。市教委などとも連携して人材の振り起こしが望めないものかと思う。</li> </ul>	

【自己評価 評価】  
 A：100≦（目標達成）  
 C：60≦（もう少し）<80  
 B：80≦（ほぼ達成）<100  
 D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。